

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

2025年11月28日（金）

田中ナースリー若宮保育園

1・活動のテーマ

《テーマ》 多文化理解を軸にした探究活動

2・テーマの設定理由

- ① 子どもたちに異文化への興味や寛容性、他者尊重の心を育む。
- ② 活動を通して、自分の身近なものを入り口に世界に興味を広げて行ってほしい

3・活動のスケジュール

- 活動時間：2025年11月28日（金）13:00～14:30
- 場所：ひろば
- 活動内容と流れ：

時間	活動
13:00 ～ 14:30 (環境設定) チーム対抗戦： スキットル・エリア	フィンランドの遊びモルックで遊ぶ： <ul style="list-style-type: none">● クイズの形で北ヨーロッパを紹介する（30分） （北欧諸国の国旗と位置）● 画像でモルックのルールを説明する。（20分）<ol style="list-style-type: none">① 離れた位置にスキットルを並べる。② モルック棒を投げて、スキットルを倒す。 *木製の遊具なので、投げる時に投げる方向と安全面について子どもたちに話す。● 子ども達の練習時間（20～30分）<ol style="list-style-type: none">① まずはサッカーボールで練習する （子どもたち練習の状況により、木製の棒で遊ぶ） *一回目ので、子どもたちの練習の様子を見ながら、次のステップへ進む予定。● 2チームでモルックを挑戦してみる！（時間があれば）
A) <input type="radio"/> (B) <input type="radio"/> <hr/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	

4. 活動の為に準備するもの

- 北欧のカラー印刷地図と諸国の国旗カード
- モルックセット 一つ
- モルックのルールを説明する紙

【モルックとは】



モルックとは、フィンランドのカレリア地方の伝統的なキッカ（kykkä）というゲームを元に、1996年に新しく開発されたスポーツです。

母国フィンランドでは、サウナとビールを楽しみながらプレイされている気軽なスポーツです。

<https://molkky.jp/molkky/>

<https://www.molkky-japan.com/howto>

5・探究活動の実践

【活動前】

子どもたちに今日の活動について説明した。今日の異文化体験はフィンランドの遊び「モルック」だった。この遊びは木製のモルック棒を投げて、スキttlを倒すゲーム。

活動する前に、保育者がホワイトボードに北欧の地図と諸国の国旗を色分けしたマグネットで貼った。そして、子どもたちにクイズを出して「モルックは何色の国の遊びですか？友だちと話し合っってクイズの答えを当ててみましょう！」そして、子どもたちは盛り上がり、答えてみた。その後、保育者が子どもたちにいくつかのことを伝えた。「今回はモルック棒の代わりに柔らかいサッカーボールを使って、投げる練習です。」また、子どもたちにも遊ぶ時の安全面について、距離を取ってボールを投げることも伝えた。子どもたちはこの遊びに興味を持って、質問をした。「この木製のモルック棒の重さはどれぐらい？」保育者が子どもたちを一列に並んでもらって、モルック棒を片手で持ってみた。「全然重くない！」「軽い！」「ちょっと重い」子どもたちそれぞれの感想を言った。その後、子どもたちは一人ずつ一個のサッカーボールを取って緑の線の後ろに一列を並んでもらった。

【活動中】

子どもたちは真剣にボールを投げる姿が見られた。最初子どもたちがスキttlに当てて倒すのが難しくて、なかなか倒せないが、30分の練習時間を経て全員が段々上手になった。子どもたちはスキttlに当たった時、とても喜んで「やった！」「もう一回」と言った。活動が始まってから20分後に、中間計算をして、子どもたち各人の点数を計算した。そして、また第二ラウンドが始まった。最後に、第一ラウンドと第二ラウンドの点数を計算した。残り20分は「ジェンズ」で遊び楽しく90分を過ごした。

【活動後】

モルックの練習が終わった後に、子どもたちに今日の活動について感想を言ってもらった。子どもたちは「楽しかった！」「帰りたくない！」「終わるのはまだ早い」と言った。

6・活動の様子（写真など）



子どもたちは真剣にモルックについての話を聞いている。



実際にモルックをやってみた子どもたちは真剣な表情が見えた。



子どもたちがモルック棒を持って写真を撮った。

7・振り返り（気づきなど）

- モルックのゲームを通して、北欧の諸国と国旗を知った。
- 最初の 30 分は、スキットルを倒すのが難しかったが、練習すればするほど子どもたちは上手になって、スキットルの当てる率が上がった。
- モルックのゲームは身体活動だけではなくて、数字も計算するので、子どもたちは成績の計算に興味を示した。
- 手で投げる練習だけではなくて、次回はサッカーボールを使って、足でボールをキックしてスキットルを倒す予定になっている。